

シラバスの概要 (Conflict and Security Law I・II)

担当 広島平和研究所 准教授 福井 康人

指定教科書: Research handbook on International Conflict and Security law (Edward Elger, 2013)

I. Conflict and Security Law I (前期)

1. 教科書の講読 (第1章から第10章)

- 紛争解決
- 軍縮・不拡散
- 武力による威嚇の禁止
- 武力による行使の禁止
- 武力行使を支配する法的レジームの中心となる国連安全保障理事会
- 人道目的での武力の行使
- 武力紛争の分類
- 兵器法
- 標的選別規則

2. 研究ノート作成のための議論、並びに広島平和記念資料館及び広島地域の戦史跡の訪問学習等

3. 研究ノートに係る中間報告

学修手法: 指定文献講読を通じて紛争・安全保障分野の法的知識を体系的に取得するとともに、広島平和記念資料館並びに広島市及び近郊に所在する戦争関連史跡を訪問のみならず、被爆者体験の聴講等を行うことにより平和の尊さを認識しつつ、最終的に学修成果を研究ノートの形で結実させるため、口頭で中間報告を行うことを目指す。

II. Conflict and Security Law II (後期)

1. 教科書の講読 (第11章から19章)

- 国際的武力紛争において保護される人
- 民間軍事会社の扱い
- 国際人道法及び国際人権法
- 戦争犯罪
- 紛争の平和的解決と国際法
- 域外統治: 植民地主義、占領、信託統治のマンデート及び取極め、国際信託統治
- PKO
- 領域外軍事作戦における人権の保護
- 賠償及び補償

2. 研究ノート作成のための議論、並びに広島平和記念資料館及び広島地域の戦史跡の訪問学習等

3. 研究ノートの発表 (成果については適当雑誌等に投稿することが期待されている)

学修手法: 指定文献講読を通じて紛争・安全保障分野の法的知識を体系的に取得するとともに、広島平和

記念資料館並びに広島市及び近郊に所在する戦争関連史跡を訪問するのみならず、被爆者体験を聴講することにより平和の尊さを認識しつつ、最終的に学修成果を研究ノートの形で結実させる。

【参考1】被爆の実相との関連

1. 大学院の講義は必ずしも1時間に1章を学習するものではなく、内容により重要と思われるところは重点的に学生との討論などの形で理解を深める予定である。被爆の実相の理解を深めることは、例えば、前期全15コマのうち、教科書の章立てから前期に履修する第1章から10章のうち、●軍縮・不拡散では核軍縮と被爆者問題を、●兵器法では不必要な苦痛をもたらす非人道兵器の禁止の流れを、●標的選別規則では不幸にして武力紛争が発生した場合であっても病院等の攻撃が禁止されており、文民は標的とならない文民保護規則をそれぞれ講義の中で被爆の実相との関連を踏まえて扱う。
2. また、後期前15コマで取り上げる、第11章から第19章のうち、●国際的武力紛争において保護される人では文民保護のみならず負傷した兵士の保護を、●国際人道法及び国際人権法においては、両者に違反する事例として広島、長崎への攻撃について、●戦争犯罪においても同様に広島・長崎の事例が該当するかについて、●賠償及び補償においては被爆者援護法及び講和条約の問題点を含めて、それぞれの内容の国際法上の位置づけを含めて学修することを予定している。
3. 特に上記1. 及び2. で取り上げた7つの章は国際の平和と安全の観点から特に重要であることから、それぞれ1コマ以上の時間を割り当てた上で、広島・長崎講座の趣旨に鑑みて被爆の実相が関連国際法とどのような関係があるか理解が深まるように意を用いる。更に、前期後期を通じてそれぞれ最低1回は平和記念公園周辺でのフィールドワーク等にあて、資料館見学、被爆体験聴講を行う他、学習内容を深めることの出来る適当な機会（学術系平和関連講演会や展示等）が開催される場合は積極的に参加することを奨励し、平和への理解を深める。

【参考2】2018年度のもの

(前期)

1. After the general introduction for Conflict and Security Law, this course covers, inter alia, following issues (chapters 1-10):
 - Conflict prevention,
 - Disarmament and non-proliferation,
 - The prohibition of threats of force,
 - The prohibition of the use of force,
 - The centrality of the United Nations Security Council in the legal regime governing the use of force,
 - A study of the scope and operation of the rights of individual and collective self-defence under international law,
 - The use of force for humanitarian purposes,

-A taxonomy of armed conflict,

-Weapons,

-Targets.

2. Discussions to facilitate the planning of the research note' s structure.

3. On-site visit to the war memorial site such as A-bomb dome and listening to the *Hibakusha* witness.

4. Presentation of the progressive report (in the final class of the 1st semester)

(後期)

1. After the stocktaking of the progress in the 1st semester for Conflict and Security Law, this course covers, inter alia, the following issues (chapters11-19):

-Protected persons in international armed conflicts,

-Private military companies,

-International humanitarian law and human rights law,

-War crimes,

-Peace settlements and international law: from *lex pacificatoria* to *jus post bellum*,

-Foreign territorial administration and international trusteeship over people: colonialism, occupation, the mandates and trusteeship arrangements, and international territorial administration,

-Peacekeeping or war-fighting?

-Human rights protection during extra-territorial military operations: perspectives at international and English law

-Reparation and compensation.

2. Discussions to facilitate drafting a research note.

3. On-site visit to the war memorial site such as A-bomb dome and listening to the *Hibakusha* witness.

4. Presentation of the research note (in the final class of the 2nd semester)